

.....編集後記.....

◇今月号には、地球環境の問題と関連する記事が、3編掲載されています。このうち山梨大学の中山大樹氏と電子技術総合研究所の伊原征治郎氏の論文は、昨年11月筑波で行われた第6回工業技術院資源研究総合推進会議*で講演していただいた内容を、編集委員会がお願いで書いていただいたものです。この場を借りて、厚くお礼申し上げます。(*工業技術院の研究所で構成する資源問題の研究連絡会。)

◇「読者の欄」が今月号も前ページに掲載されています。安間恵氏のご提案は、我々としても実現して行きたいと考えている企画ですが、少し時間がかかりそうです。いただいたお手紙にお礼申し上げますと共に、引き続きご批判ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

◇4月号は「物理探査の最近の話題から」と題する特集号になります。16編の記事が集まり、現在(2月)入稿の準備を進めておりますが、入りきらない一部の記事は5月号に継続して掲載される予定です。

◇8月号には、「地震と地盤」と題する特集号を予定しております。これは、ロムプリータ地震によるサンフランシスコの被害を念頭に置き、地震と地盤の問題を討論する誌上シンポジウムの性格を持つ企画で、執筆陣もほぼ決まりました。いずれその予告を掲載します。

◇来月号から「豆辞典」の欄を新設します。これは、近年使われるようになった用語、あるいは以前から使われていても近年その内容が変わってきた用語を取り上げて、半ページ程度のスペースで解説するもので、例えば、温泉型金鉱床・K/T boundary・シービーム・COCORP・CCOP・IGCP・ICP などなど多数あります。それぞれの分野では今更説明を必要としない用語でも、少し分野が異なる人には役に立つのではないかと思います。主に編集委員が執筆する予定です。

◇月刊誌「地質ニュース」の出版は、執筆依頼・原稿チェック・レイアウト・格拉修正……とこのくりかえし。休む暇もないというボヤキも……。

.....佐藤記.....

地質ニュース編集委員会

委員長:小川克郎
副委員長:鈴木尉元・佐藤興平
幹事:黒田和男・尾上亨
委員:三田直樹・岡村行信・三村弘二・笹田政克・佐藤岱生・鈴木祐一郎・武居由之・山口靖湯浅真人

事務局:総務部業務課広報係
〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所
地質ニュース編集委員会
事務局 Tel. 0298-54-3520
Fax. 0298-54-3533

地質ニュースに寄稿される方へ

1. 地球科学各分野の最近の話題・総説・解説など多方面の原稿を募ります。
2. 原稿は図・表・写真を含め、原則として刷上がり15ページ以内とします。これをこえる場合は事務局に相談して下さい。地質ニュース原稿用紙(25×18字)4枚半が1ページに相当します。
3. ワードプロセッサ使用の場合も、A4判用紙に1行25字とし、行数は20行程度として下さい。
4. 句読点・引用符などもすべて1字とし、句点(・)の次は1字あけて下さい。地質ニュースでは従来句点(,)を使っておりませんが、今後は使用を認めます。
5. 図・表・写真は本文とは別に1枚1ページとして、それぞれに番号をつけるとともに、希望する掲載サイズを余白に記入して下さい。これらにつける説明文は、本文とは別の原稿用紙に書いて下さい。とくに図と写真は、縮小率を考え鮮明なものを提出して下さい。
6. 原稿の右欄外に図・表・写真の希望する挿入位置を鉛筆で記入して下さい。
7. 原稿は事務局に提出して下さい。編集委員会から受付カードを発行します。掲載は原則として受付順としますが、速報性の高いものは優先的に印刷したいと思います。

地質ニュース編集委員会

■ 4月号予定目次 ■

EOS 計画の現状
地質調査所における空中磁気探査の歴史と将来
岩石磁気と磁気探査
地上磁気探査の話題から
重力探査における GPS の利用可能性
CSAMT 法のすすめ
MT 法による地下構造探査
深部地殻探査の関門—ノイズ—

地質ニュース	第427号 1990年3月号
	定価 ￥670 千実費
1990年3月1日 発行	
編集	工業技術院地質調査所
発行人	林久雄
発行所	株式会社実業公報社
	東京都千代田区九段南4の2の12
	〒102
	Tel. (03)265-0951 (代表)
	振替口座 東京1-32466
	麹町局私書箱第21号
総発売元	株式会社実業公報社

©1990 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都中央区錦八重州ブックセンター本店に常備してあります。